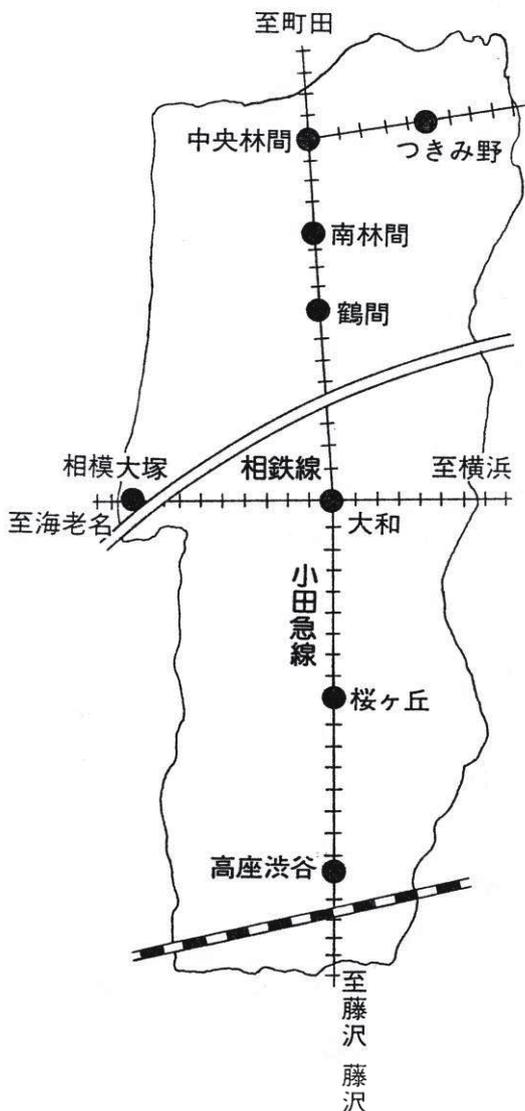


1. 自治会の沿革

大和市は、境川と引地川の流域から石器時代の土器が出土していることから、幾多の集落を形成していたことが考証できます。自治会の歴史をさかのぼると、この集落が組織化され発達し、転化、近代化したものと言われています。

本市の自治会も、この集落から始まり、戦後の旧集落を中心とした配給制度の橋渡し役を基点として、治安を守る防犯や地域の親睦など、各種各様の形で自然発生的に各地域に結成されました。



市行政をあずかる制度も、戦後は委員会行政となり、市民が直接行政に関係する機会も多くなり、自治会と市とのつながりが不可欠なものとなりました。

昭和36年7月には、自治会間の連絡調整を図り、協力し明るく住みよいまちづくりを行うため、大和市自治会連絡協議会が結成されました。防犯協会が結成され、防犯灯がはじめて各地域に設置されたのもこの時期でした。

その後、首都圏近郊に位置する本市は、東京・横浜に隣接し交通網に恵まれていることから、人口が急増し、工場や住宅の建ち並ぶ近代都市に変わっていききました。このことに伴い、住民から種々の要望が出てまいりました。

こうしたなか、各自治会では生活環境の整備など市の施策に対応するため、市民と市とのパイプ役として大きな役割を果たし、住民の自治意識の高揚と市勢の発展に尽くしてまいりました。

令和6年4月現在、160の自治会が組織され、地域に共通する問題の解決や住民相互の親睦のため、種々な事業・行事を積極的に実施しています。